

## 4 主体的・対話的で深い学びの推進、理科教育の充実

### (1) プログラム開発の背景

現代社会が抱える様々な課題を解決するためにイノベーションが期待されており、世界的にも理数教育の充実や創造性の涵養が重要視されている。

そのような中、本道では理科の授業において、理科室で観察や実験を週 1 回以上行った学校の割合が小学校、中学校のいずれも全国平均を下回り、観察・実験を通じて課題を解決するような授業が十分に行われていない状況が見られる。

このことから、道立青少年体験活動支援施設においても、理数教育を行う機会を提供し、体験活動を通して、主体的に課題を把握し、指導者や仲間との対話をとおして課題解決を図ることのできる子どもの育成を目指したプログラムを開発するものである。

### (2) 道及び道教委の主な関連施策

#### ・ 北海道教育総合大綱

「児童生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、確かな学力を身に付けることができるよう、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、思考力、判断力、表現力等を育成します。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるため、児童生徒に対するきめ細かな指導を行う体制整備を進めます。」

#### ・ 北海道教育推進計画 施策項目 4 「理数教育の充実」

「理科好きな子どもの裾野の拡大や次代を担う科学技術系人材の育成を図るため、科学や自然に対する興味・関心を高め、科学的なものの見方や考え方を育み、科学的な資質・能力を身に付けさせるとともに、それらの知識と技能を実生活や社会で活用できる力を育成するため、観察・実験を重視した探求的な学習や実社会との関わりを意識した数学的活動の充実を図ります。」

#### ・ 第 3 次北海道生涯学習推進基本構想 視点 2 1 - (1) 「多様な体験活動の推進」

「すべての子供たちが『生きる力』を身に付けられるよう、様々な主体が連携・協力し、幼児期からの発達段階に合わせた、野外教育や環境教育を通じた自然体験、ボランティア活動などの社会体験、芸術・文化体験、国際交流体験等の多様な体験活動の機会を提供することが必要です。」

### (3) 各施設実施プログラムの概要

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、計画していた 4 事業を全て中止した。